

私は令和7年4月27日に発生した交通事故で命を奪われた高橋慎二(旧姓:谷口)の母です。
慎二は私の人生にとって、他の子と同様に欠かす事の出来ない大切な存在でありましたが
その命を突然理不尽な事故で奪われました。
私は長崎に住んでいるため、慎二には会いたくてもなかなか会えない状況が
続いていましたが、再会の形がまさかこの様になるとは夢にも思わず
現実を今も受け入れる事が出来ずにいます。

事故後、私は悲しみばかりが先立ち何も手に付かない事が多く、慎二との思い出に
更ける事が多くなり、夢に慎二が出てきては、目が覚めて現実に戻される・・・
毎日が耐え難い苦しみの連続です。

しかし、時間が経つにつれ、深い悲しみとともに、なぜ慎二は命を奪われなければ
ならなかったのか、慎二の命を奪った加害者に対し怒りに近い感情が高まってきています。
加害者はなぜ安全運転を怠ったのか、その一瞬の不注意が、一人の大切な命を奪い
そして、慎二に関わる全ての人を悲しみのどん底に突き落としたという事を
どこまで理解されているのでしょうか？私は加害者の過失は単なる「不注意」ではなく
尊い命を奪った重大な「罪」であり、責任を一生背負い逃げる事なく償うべきだと考えます。
本当の意味で反省し、加害者側全てが変わっていかなければ、同じ悲劇が繰り返される
のではないかという恐怖すら感じてしまいます。

加害者に慎二の命を返せと言っても無理な事は分かっています。
慎二の命を無駄にしないためにも、遺族としての思いはただ一つ。
二度とこの様な悲しみを他の誰にも経験させない事です。
そのためにも加害者は厳しい処罰が下されるべきだと強く望みます。

裁判所におかれましては奪われた命の重さ、残された遺族の苦しみを十分に
ご理解いただき、厳正かつ公正なご判断を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。